



第65期の経営方針を発表する西原社長

中央設計技術研究所はこのほど、金沢市北安江の金沢労働者福祉サービスセンターで第65期経営計画報告会を開催した。次長職以上が参加し、西原秀幸社長が今期の経営方針を発表。人材確保育成に重点を置き、今期計画の達成に向けて決意を新たにした。

西原社長は前期を振り返り、「業績は過去最大の達成となつた。特に受注高は能登半島地震対応と、重点化事業として進めていた官民連携事業関連で大きな成果があり、44億円となりました。営業利益確保も各部所が毎月きっちりと管理し、コスト削減に努めてもらつた成果」と感謝を伝えた。

人財確保・育成に重点 第65期経営計画報告会

中央設計技術研究所(金沢市)

重点施策としたIT基盤強化の推進では、情報セキュリティの継続的対応とDXによる業務効率化、人材確保育成、組織力強化では、一人財獲得推進室の一新設、新たな「人事評価制度」の運用開始、外部研修参加の充実などを実施した。

今期65期業績目標は、売上高40億7000万円、受注高41億500万円、生産額40億7000万円、営業利益2億3700万円に設定。営業利益率について「2030年の中期も大きくアップさせし、前期に引き続き今

来年1月、中部支社を新設

重点施策としたIT基盤強化の推進では、情報セキュリティの継続的対応とDXによる業務効率化、人材確保育成、組織力強化では、一人財獲得推進室の一新設、新たな「人事評価制度」の運用開始、外部研修参加の充実などを実施した。

今期65期業績目標は、売上高40億7000万円、受注高41億500万円、生産額40億7000万円、営業利益2億3700万円に設定。営業利益率について「2030年の中期も大きくアップさせし、前期に引き続き今

1月に中部支社を新設。「中部地区に本社導入などで業務効率化を図るとともに、官民連携事業、人材確保育成に注力し、投資を継続する方針を示した。

重点施策では、会社を継続に向け計画と改善を繰り返すPDCAで人材獲得を推進。必要となる新たな事業創出とCSEブランド商品の継続的開発も進めていく。また、受注ができる生産力の拡大と業務効率化、情報セキュリティの継続的強化に加え、ほめる企業文化の醸成や社員のモラル向上なども図る。

組織再編では、26年までいく」と決意を伝えた。